

平成 27 年度 冬期の雪による労働災害の現状

新潟労働局

1 年度別の推移

新潟県における冬期の雪による労働災害の発生状況は、平成 4 年度以降、別表 1 のとおり推移している。

平成 27 年度の雪による労働災害で被災した休業 4 日以上之死傷者数は、死亡者 1 人を含め 125 人（前年度比 -26 人）と減少した。

2 業種別の内訳

業種別では、別表 2 のとおり、新聞販売業 26 人(20.8%)、製造業 20 人(16.0%)、道路貨物運送業 13 人(10.4%)、その他が 36 人(28.8%)などとなっている。

なお、その他の内訳は、清掃・と畜業 9 人、その他の事業 7 人、通信業 5 人、運輸交通業（道路貨物運送業を除く）、商業（新聞販売業を含む小売業を除く）各 4 人、接客娯楽業（スキー場を除く）3 人、教育・研究業 2 人、農業、保健衛生業（社会福祉施設を除く）各 1 人などとなっている。

3 事故の型別発生状況

事故の型別では、別表 2 のとおり、転倒が 85 人(68.0%)、墜落・転落 21 人(16.8%)、交通事故 10 人(8.0%)となっており、ほぼ毎年、これらの型だけで全体の 90%前後を占めている。死亡災害については、雪崩による積雪調査を終え下山中に、登山道から滑落して 1 人が死亡している。

4 除雪作業における労働災害

除雪作業における労働災害は、別表 3 のとおりで、雪による災害総数 125 人のうち 1 人(0.8%)であった。

なお、屋根除雪では屋根や梯子から足を滑らせて墜落するなどの災害は発生していない。

5 月別の発生状況

月別では、別表 3 のとおり、1 月においては 58 件(対前年度比 +9 件)と増加していることから、降積雪期前の安全衛生教育が必要とされている。

参考 最近の屋根除雪作業指揮者安全教育の実施状況

	平成 23 年	平成 24 年		平成 25 年		平成 26 年		平成 27 年	
	上越 (11/28)	小出 (11/22)	上越 (11/28)	小出 (11/21)	上越 (11/28)	小出 (11/13)	上越 (11/27)	小出 (11/12)	上越 (11/26)
受講者数	83	111	91	76	51	72	42	68	51

(別表1)

雪による労働災害発生状況の推移

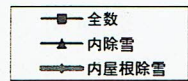
新潟労働局

	4年	5年	6年	7年	8年	9年	10年	11年	12年	13年	14年	15年
全 数	75	② 120	① 147	① 176	② 101	① 124	① 110	① 128	222	70	① 128	① 107
内 除 雪	6	① 16	① 38	27	② 10	16	11	13	32	3	4	8
内屋根除雪	2	① 4	① 14	11	3	5	7	5	15	1	2	3

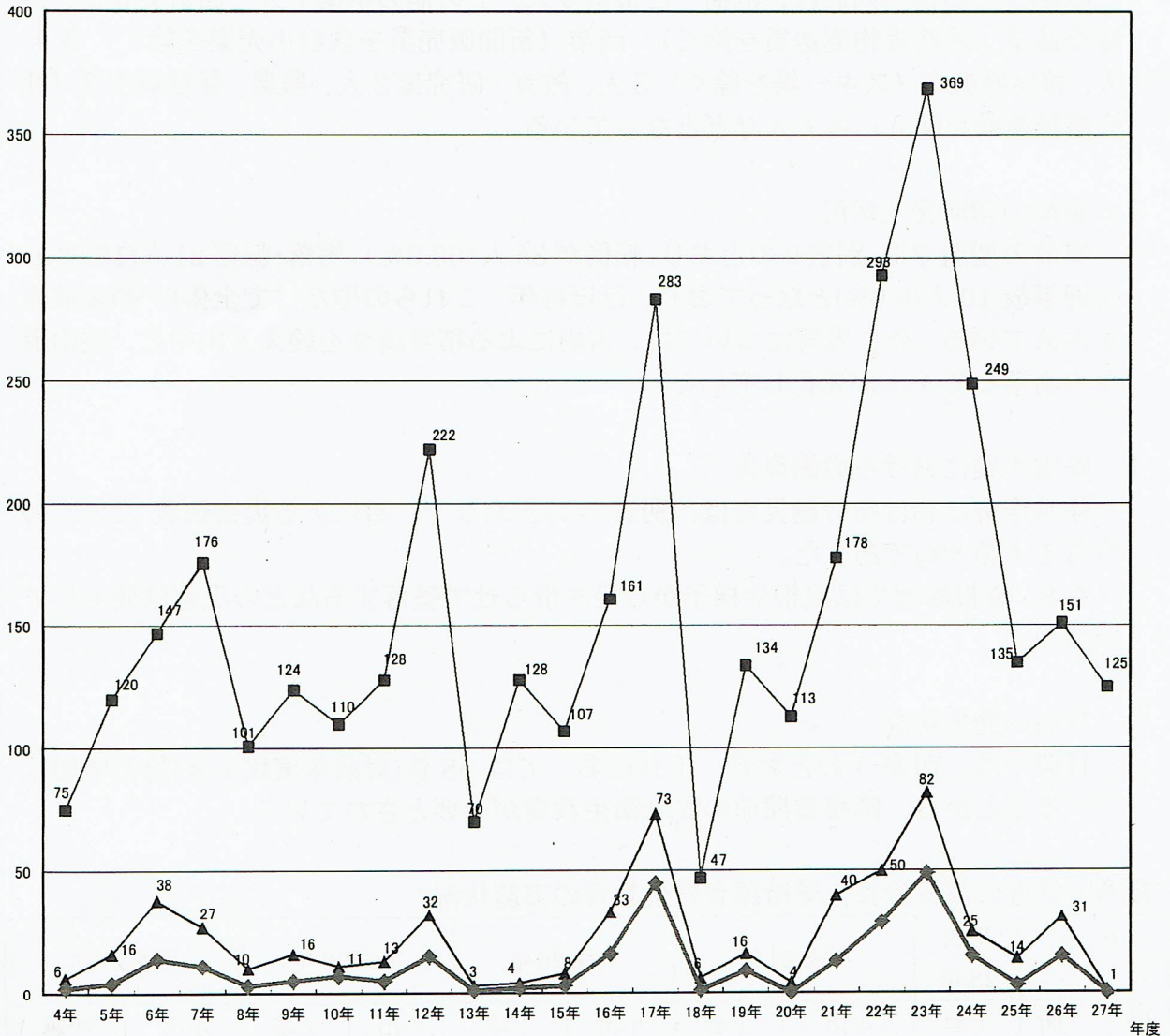
	16年	17年	18年	19年	20年	21年	22年	23年	24年	25年	26年	27年
全 数	② 161	② 283	47	② 134	113	③ 178	④ 293	③ 369	249	① 135	① 151	① 125
内 除 雪	② 33	① 73	6	16	4	② 40	① 50	② 82	25	① 14	① 31	1
内屋根除雪	16	① 45	1	9	0	① 13	① 29	① 49	15	3	15	0

(休業4日以上、○内は死亡で内数)

年度別推移



(人)



(別表2)

平成27年度 雪による業種別・事故の型別労働災害発生状況
(平成27年11月～平成28年3月)

業種別	新潟労働局										割合	
	署別	新 潟	長 岡	上 越	三 条	新 発 田	新 津	小 出	十 日 町	佐 渡		合 計
業 種 別	製 造 業	3	5	2	4	2	2	1	1		20	16.0%
	建 設 業	1	2	1	1	2	1	2	1		11	8.8%
	道路貨物運送業	4	3	1	2	1	2				13	10.4%
	新聞販売業	8	6	4	1	2	1		4		26	20.8%
	小売業(除新聞)		2	1			1				4	3.2%
	社会福祉施設	3			2	3	4				12	9.6%
	ス キ ー 場							3			3	2.4%
	そ の 他	10	1	9 (1)	4	3	2	5	2		36 (1)	28.8%
	計	29	19	18 (1)	14	13	13	11	8		125 (1)	100.0%
	事 故 の 型 別	墜落・転落	4	3	1 (1)	8	1	2	1	1		21 (1)
転 倒		22	12	15	4	10	9	9	4		85	68.0%
激 突							1				1	0.8%
雪 崩												
巻き込まれ			1						1		2	1.6%
交通事故		3	1	2	1	1	1		1		10	8.0%
そ の 他			2		1	1		1	1		6	4.8%
計		29	19	18 (1)	14	13	13	11	8		125 (1)	100.0%

(休業4日以上、()内は死亡で内数)

平成27年度 冬期の雪による労働災害発生状況(平成27年11月～平成28年3月)

区分 署別	11月				12月				1月				2月				3月				合計			
	総数	除雪作業	屋根除雪	内墜落	総数	除雪作業	屋根除雪	内墜落	総数	除雪作業	屋根除雪	内墜落	総数	除雪作業	屋根除雪	内墜落	総数	除雪作業	屋根除雪	内墜落	総数	除雪作業	屋根除雪	内墜落
新潟									21				7				1				29			
長岡					1				10				7				1				19			
上越					1				6				9 (1)				2				18 (1)			
三条					1				6				6				1				14			
新発田									3	1			9				1				13	1		
新津									6				5				2				13			
小出									3				4				2				11			
十日町									3				3								8			
佐渡																								
合計					7				58	1			50 (1)				10				125 (1)	1		
平成26年度					68	9	6	4	49	13	7	5	26 (1)	6 (1)	2	2	8	3			151 (1)	31 (1)	15	11

(休業4日以上、()内は死亡で内数)

冬季無災害運動を推進しています

実施期間：平成28年12月1日～平成29年2月28日

路面・作業床の凍結・積雪による転倒災害を防止しましょう



《携帯用スパイクの例》



《ヒートマットの設置例》

予防策!!

- ▶ 余裕をもって、急がず、短い歩幅で歩く
～あせらない 急ぐ時ほど落ち着いて～
- ▶ 凍結防止剤の散布、除雪・融雪の徹底
- ▶ 足のサイズにあった滑りにくい靴の着用
水・油用の耐滑靴も、雪や氷の上では滑ることがある
- ▶ 除雪・融雪するためのマットの敷設 など

毎年、下のような災害も発生しています

スリップによる交通事故



予防策!!

- ▶ 無理の無い走行計画を立てること
- ▶ 早めの冬用タイヤの装着
- ▶ 速度を控え、急ハンドル・急ブレーキ・急発進をしないこと
- ▶ 交通安全マップの作成 など

屋根除雪中の墜落災害



予防策!!

- ▶ 作業指揮者を選任すること
- ▶ 2人以上で作業を行うこと
- ▶ 保護帽・安全帯の着用
- ▶ 作業計画を策定すること など

除雪車・除雪機によるはさまれ・巻き込まれ災害



予防策!!

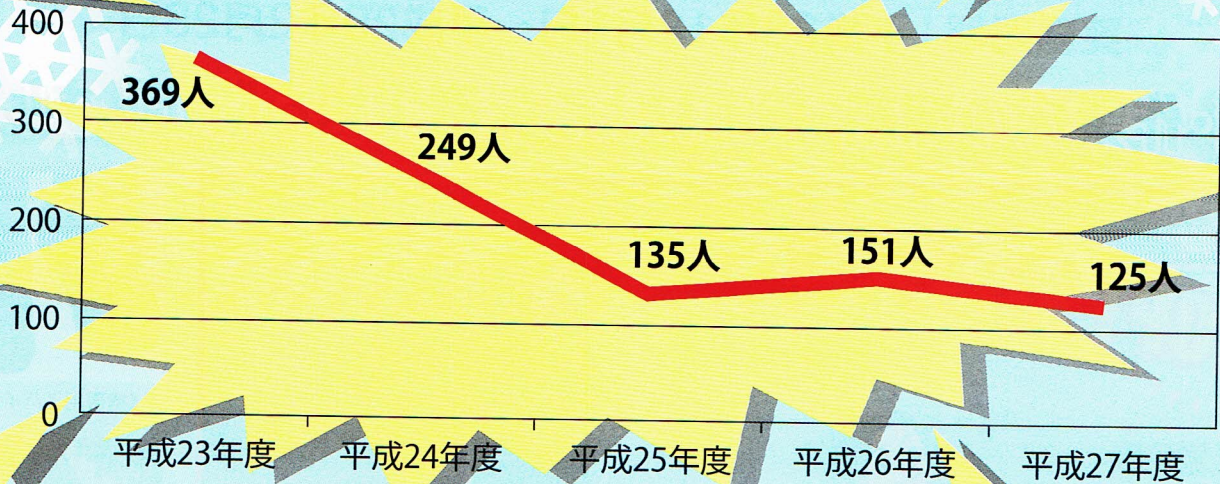
- ▶ 機械の故障・点検時にはエンジンを停止すること
- ▶ 運転時には周囲の確認を徹底すること
- ▶ 作業範囲内への立ち入り禁止を徹底すること など



新潟・富山・石川・福井労働局・各労働基準監督署

雪による労働災害に注意!!

【新潟県における休業4日以上の労働災害発生件数の推移】



冬の転倒災害を予防するには

転びにくい歩き方

①小さな歩幅でゆっくり歩く

歩幅が大きいと、重心の上下移動量が大きく、かかと側から着地することにもなるため、転倒しやすくなります。

②やや前傾姿勢で足の裏全体を踏みしめて歩く

重心をやや前に置き、膝の関節を柔らかくして、土踏まずの前のあたりでそっと着地し、足の裏全体を路面にゆっくり垂直に踏み降ろします。



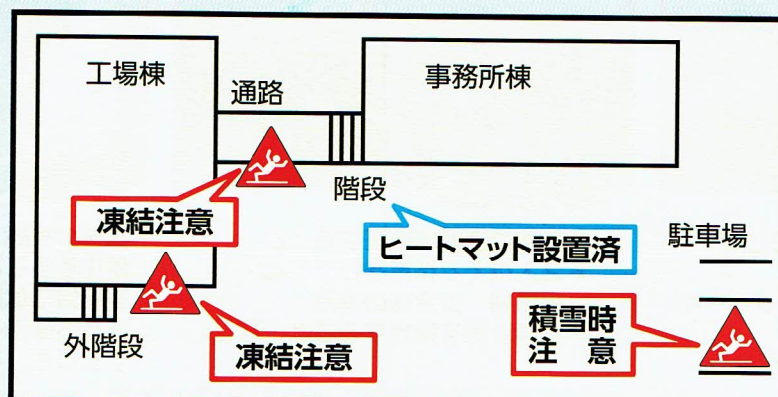
冬用の靴の選び方

靴底にも得意な路面と不得意な路面がありますので、靴を選ぶ際には、使用状況や用途を販売店に説明して適切な靴を購入してください。なお、一般的な特徴は以下のとおりです。

- ①発泡ゴム等の柔らかいゴム製の靴底は、路面への吸着力により滑りを防止しますので、適切な溝とともに比較的多くの路面に対応します。
- ②摩擦材入りの靴底や金属ピンのある靴底は路面を引っ掻くことで滑りを防止しますので、凍結路面や圧雪で一定の効果があります。脱着式のスパイクなども販売されていますので、使用状況に応じて使い分けてください。



危険マップを作成しましょう



〈危険マップの例〉

